

一般廃棄物処理施設の維持管理に関する情報の公表について

(2025 年度 倉敷西部クリーンセンター)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第4条の5の2に基づき、一般廃棄物の焼却施設である倉敷西部クリーンセンターの維持管理に関する情報を公表いたします。

1. 処分した一般廃棄物(可燃ごみ)の量 ■規則 第4条の5の2第1項第1号 イ 関係

区分		月 単位	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計
焼却量	1号炉	t	1,120.94	4,266.21	3,562.54	3,334.52	1,758.16	3,722.40							17,764.77
	2号炉	t	4,090.04	1,190.54	3,551.90	3,338.14	1,660.78	3,699.79							17,531.19
合計焼却量		t	5,210.98	5,456.75	7,114.44	6,672.66	3,418.94	7,422.19							35,295.96

2. 燃焼室中の燃焼ガス温度、集じん器に流入する燃焼ガス温度、排ガス中の一酸化炭素(CO)濃度(すべての日平均値の月平均値) ■規則 第4条の5第1項第2号 ト、リ、ヲ 関係

項目		月 単位	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年 度 平均値
燃焼室中の燃焼ガス温度	1号炉	℃	928	923	915	923	928	914							922
	2号炉	℃	919	924	908	908	922	907							915
集じん器に流入する燃焼ガス温度	1号炉	℃	164	168	162	159	167	165							164
	2号炉	℃	165	162	161	160	166	164							163
排ガス中のCO濃度	1号炉	ppm	4	4	4	3	3	4							4
	2号炉	ppm	4	4	3	3	3	3							3

3. 冷却設備、排ガス処理設備にたい積したばいじんの除去を行った日 ■規則 第4条の5第1項第2号 ヌ 関係

項 目	1 号 炉	2 号 炉
冷 却 設 備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。
排ガス処理設備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。

4. ばい煙量又はばい煙濃度測定結果 ■規則 第4条の5第1項第2号 カ 関係

区 分	基準値	単 位	1号炉						2号炉					
			1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
排ガスを採取した年月日			2025年4月4日	2025年6月6日	2025年8月4日				2025年5月7日	2025年7月4日	2025年9月3日			
結果が得られた年月日			2025年4月21日	2025年6月20日	2025年8月19日				2025年5月27日	2025年7月22日	2025年9月18日			
ばいじん濃度	0.01	g/m ³ N	0.001	0.002	0.0009未満				0.001	0.001	0.001			
塩化水素濃度	30	ppm	25	26	28				27	22	27			
窒素酸化物濃度	50	ppm	39	31	33				37	34	31			
硫黄酸化物濃度	30	ppm	5	8	6				12	6	6			
水銀濃度	30	μ g/m ³ N	0.37	-	0.65	-		-	0.46	-	0.28	-		-

5. 排ガス中のダイオキシン類濃度測定結果 ■規則 第4条の5第1項第2号 カ 関係

区 分	基準値	単 位	1号炉						2号炉					
			1回目						1回目					
排ガスを採取した年月日									2025年7月4日					
結果が得られた年月日									2025年7月28日					
排ガス中のダイオキシン類濃度	0.05	ng-TEQ/m ³ N							0.00074					

【検査項目等の説明】

- ・ばいじん濃度

・塩化水素濃度

・窒素酸化物濃度

・硫黄酸化物濃度

・ダイオキシン類
- : 物の焼却とともに発生する。このうち、すす、完全に燃焼した灰分、燃焼ならびに熱分解による固形粒子をいう。

: 塩化ビニール樹脂等の燃焼の際に発生し、刺激臭を有する無色の気体である。自然界では火山活動等で発生する。

: 石油、ガス等の燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等多種多様である。

: 石油や石炭を燃やすとそれらに含まれている硫黄分が酸素と結合して発生する。天然には、火山温泉等に存在する。

: 塩素、酸素、炭素、水素の存在下で、ものが燃焼するときが発生する有機化合物である。ごみ焼却、タバコの煙、自動車の排気ガス、野焼きのほか様々な発生源から副生成物として発生する。